



杭工事

施工期間(予定)
2017.6~2017.10

今回は、基礎工事の一つである杭工事についてご紹介します。
「杭」は、建物本体の荷重を固くて安定した地層(支持層)に伝えるために設置する柱状の構造材です。

この「杭」により、普段から庁舎が支えられ、さらに地震などにより瞬間的に大きな力が加わったときでもその力に対抗して、庁舎の安全性能を保持してくれます。
見えない地中でしっかりと庁舎を支えてくれる、縁の下の力持ち、それが「杭」なのです。
新庁舎では、合計211本もの杭が縁の下の力持ちとして活躍してくれることとなっています。



杭工事のようす(既製コンクリート杭)

高知市の新庁舎の杭には「既製コンクリート杭(埋込み工法)」を採用して工事が進められています。

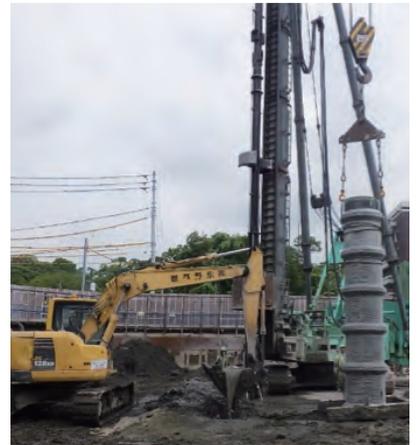
埋め込み工法は、杭に衝撃を与えて打ち込む打撃工法よりも騒音・振動が少ないという利点があります。



◀直径1メートルの既製コンクリート杭。杭の中には大人も入れます。



▲杭芯を確認して、重機(アースオーガー)で地盤を掘削します。



▲掘削した穴に既製杭を建て込み、挿入します。

森本なギモン♪

Q

地中に埋めた丸太と、この杭は何が違うの？



前回お知らせした丸太は、砂質が多い地盤に打ち込むことで液状化を防ぐ、つまり「地盤を改良するためのもの」であるのに対して、今回の杭は、建物と安定した地層を繋ぐことで「直接支える柱のようなもの」になるんだ。

これらは主な役割は違うけど、どちらも建物を安定して支えるための大事な基礎工事なんだよ。



現場ウォッチング

新庁舎建設現場内の東側に小さな避暑地が誕生！？その名も「ゴーヤdeえこ」。近年、話題になっているゴーヤを使ったグリーンカーテンを6月に始めたところ、すくすくと成長しゴーヤの実がなるまでに！
夏の暑さにもめげることなく大きく育つゴーヤたちに、少し元気をもらえそうな気がします。



▲大成・大旺新洋JVの皆さんは、いつも新しいアイデアで現場を和ませてくれています。



▲現場の中に緑はちょっとした癒しスポット！？



▲ウルトラ大きくできました♪

